

# 新年のご挨拶

鹿児島市医師会 会長 上ノ町 仁



新年明けましておめでとうございます。

先生方におかれましては、ご家族をはじめ職員の皆様とともに、清々しい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

まず、昨年を振り返りますと、6年に1度となる、医療・介護・障害福祉サービスの3つの報酬が同時改定される“トリプル改定”の年であり、いわゆる2025年問題や2040年問題などの課題を見据えた改定となりました。

主に、医師をはじめ医療従事者の働き方改革や人材確保、医療DXや地域包括ケアのさらなる推進、物価高騰や賃金上昇への対応を考慮した内容が盛り込まれましたが、会員の先生方からは、特に生活習慣病管理料やベースアップ評価料に関して、手続き等で現場の負担が増加し診療に悪影響が出ているなど、非常に厳しい現状を訴える意見が数多く聞かれました。そのため、当会では会員医療施設に対してアンケートを実施し、その結果を鹿児島県医師会にご報告のうえ、日本医師会を通じて国へ改善を求めていただくよう、要望いたしました。会員の先生方が安心して地域医療に貢献していただけるよう、前向きに検討していただきたいと切に願っております。

スポーツ界に目を向けますと、7月にフランス・パリで100年ぶりに開催された夏季オリンピック競技大会では、日本選手団が金メダル20個、銀メダル12個、銅メダル13個、合わせて45個のメダルを獲得しました。また、金メダルの数とメダルの総数において、

海外で開かれた大会での最多記録を更新するなど、日本中が歓喜に包まれました。

また、昨シーズンからロサンゼルス・ドジャースへ移籍した大谷翔平選手は、本塁打54本・130打点でナショナルリーグの本塁打王と打点王のタイトルを獲得するとともに、日本選手最多記録となる59盗塁を決めて、メジャーリーグ史上初の本塁打50本・50盗塁以上の「50-50」を達成し、3回目の満票でのMVPを獲得するなど、まさに伝説の1年と呼ぶにふさわしいシーズンとなりました。今年もさらなる成長を期待します。

一方、自然界は、元日に石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の大地震が発生、また、9月には同地方で記録的な大雨となり、地震災害からの復旧・復興に向けて進んでいた中、再び甚大な被害に見舞われました。DMAT等の献身的な活動もありましたが、さらなる災害医療への対策強化が求められるところです。

そして、鹿児島市医師会に視点を移し、昨年の経過を踏まえ今年の志を語りますと、まず、昨年1月、地域医療の維持・発展に資することを目的として「開業・承継支援センター」を開設いたしました。開業や医業承継、医業経営全般に関して、会員の先生方をはじめ当会にご入会いただける先生を支援しております。何かお困りごとがありましたら、お気軽に当会事務局へご連絡ください。

また、共同利用施設である臨床検査センターは、新興感染症に備えながら安定した経営に努めるとともに、業務の効率化を図るた

めのクリニック向けDXサービスとしてドクター支援システムVer IIを推進いたしました。さらに、3S（精度・スピード・サービス）の取り組みの一環として、患者さんなどとより良いコミュニケーションを図ることのできる職員の育成を目的とした接遇研修支援を開始いたしました。今年はさらに先生方への診療支援の内容を拡大充実させてまいりたいと考えております。

医師会病院は、昨年6月に開設40周年を迎えることができました。開設時からこれまで当院をお支えいただきました多くの先生方に厚く御礼申し上げます。昨年は「勝負の年」と位置付け運営してまいりました。当院を取り巻く環境は、この40年間で様変わりし、高度急性期医療を提供する病院が幾つも開設され、また少子高齢化も急速に進んでおり、当院に期待される役割は、開設当初とは大きく変わってきております。そのような状況を踏まえ、「続・勝負の年」として、地域医療構想・会員のニーズ・財務の面から俯瞰し、従来どおり急性期から地域包括ケア、緩和ケアまでシームレスな医療を展開することは勿論、さらなる取り組み策として、会員の今あるニーズにお応えすべく、消化器科や乳腺・甲状腺外科の診療の拡充と、緩和ケア科での難病患者の在宅診療や、総合内科での高齢者救急への対応強化を図ってまいります。

今後とも当院の立ち位置を認識しながら、求められる役割を確実に果たしてまいりたいと考えております。

私は、鹿児島市医師会を運営するにあたり、「会員の先生方のために、そしてその先にある患者さんや市民の健康のために」を基本理念に掲げ、十分に「議」を交わし「和を以て貴しとなす」医師会を目指しております。本年も先生方のニーズにしっかりお応えできる医師会を目指し、先生方と大いに「議」を交わし、「和」と「不断の努力」と「覚悟」をもって会員の先生方が納得のいく方向へ進めたいと思います。

そして我々は、新年を迎え気持ちを新たに、継続する大きな課題である「新たな地域医療構想」「医師偏在対策」「医療DXの推進」「医師の働き方改革」「かかりつけ医機能の制度整備」等に対し、鹿児島県医師会、各郡市医師会や関係機関としっかり連携し、先生方が安心して医療に取り組むことで地域医療を支え市民の方々の健康に寄与できるよう尽力したいと思いますので、本年もどうかよろしくごお願い申し上げます。

